

三
十
六
球
目

2018夏

災害・異常気象への備え



市長 榑原純夫

気象庁の定義では、6月から8月までの期間が夏、迎えた9月からが秋となります。

振り返ってみますと、今年の夏は6月に大阪府北部を震源とする地震が発生、7月初旬には西日本を中心に梅雨前線等の影響による集中豪雨、その後は西日本の被災地を含め38℃以上の記録的な猛暑が続くなど、日本中が相次ぐ自然災害に見舞われました。

本市においても想定外の災害は起こりうる事であり、「想定外ゆえ仕方がない」と言い訳をすることなく、限りある財源で優先順位を考え、早急な対策を行っています。

危険が認められるブロック塀の撤去・改修

大阪北部地震では、学校プールのブロック塀が倒壊し、小学4年生の児童の尊い命が失われました。

本市では直ちに学校を始めとする公共施設の点検を行い、危険と判断されたブロック塀についてはすべて撤去するなど、安全対策改修工事を行いました。

また、公共施設だけではなく、通路や一般道に面するブロック塀などの倒壊により、近隣の方々や歩行者が巻き込まれて命を失うことがあれば取り返しがつきません。ご自宅のブロック塀などの安全確認をあらためてお願いいたします。

さらに、本市では危険なブロック塀の撤去工事を実施していただく際に、費用の一部を補助する制度を設けています。特に、大阪北部地震発生（平成30年6月18日）以降、平成32年3月31日（2020年）までの2年間に限り、撤去工事を行っていただける方への補助制度を拡充し、早期の安全対策を後押しいたします。（※補助制度の詳細は、市報P7参照）

また、あわせてブロック塀の付け替えとして、生垣の設置に対する補助も行っております。

小中学校へのエアコン設置

今年の夏の暑さは凄まじいものでした。私自身もこれまでの人生で経験したことがないほどの暑さ、まさに、命に危険を及ぼすレベルであったと認識しています。

特に、極暑となった中部地方では、7月17日に豊田市で、校外学習から帰ってきた小学1年生の男児が学校で意識を失い、搬送先の病院で亡くなるという痛ましい事故が起こりました。水分補給など熱中症対策を行っていたにも関わらずです。他人事ではありません。

教育委員会へは、熱中症への注意喚起はもちろんのこと、他部署においても熱中症予防として「高温なら

ば、躊躇することなく行事の中止や延期、開催時期の見直し」を指示してきました。そして、「子どもたちの命と安全を守るため」エアコン設置を即断即決し、市内すべての小中学校の普通教室、約400室への整備を迅速に進めてまいります。

学校施設の老朽化対策に多大な費用を投じている中で、さらにエアコン整備をすることの是非について熟慮いたしました。将来ある子どもたちの健全育成を最優先とさせていただきます。

体力の乏しい低学年児童や特別支援クラス、また、受験を控える中学3年生のクラスから工事着手し、来年の夏には間に合うように全学年の教室にエアコンを設置します。近隣市町もエアコン設置の検討を始めており、機器の確保や工事業者の手配に心配はありますが、総力を挙げて取り組んでまいります。

市民の皆様におかれましては、ご自身やご家族の命を守るため、日頃から防災意識を高めるとともに、健康にもご留意いただきますよう、お願いいたします。